



銀のたまご

VOL.24

令和6年2月1日号



成田市シルバー人材センターのあゆみ

市民とともに30年

シルバー祭りで自作の鉄道模型を説明する会員

＼ 高齢者が働くことに生きがいを感じ、地域社会に貢献する /
公益社団法人 成田市シルバー人材センター



成田市シルバー人材センターのあゆみ

市民とともて30年

令和5年4月、成田市シルバー人材センターは設立30周年を迎えました。この間、多くの会員と市民に支えられ大きな成長を遂げました。今回は、センターの生い立ちから今日までを振り返ってみました。

始まりは東京から

戦後の経済成長を支えた人たちが高齢期を迎え始めた昭和50年(1975年)、東京都内でシルバー人材センターのさきがけとなる「江戸川区高齢者事業団」が創設されました。高齢者の知識や経験を、就業という



現在の事務所(久住中央)

形で地域社会に生かしていこうという発想が多くの人々の共感を得て、同様の取り組みが瞬く間に全国に広まりました。

昭和55年(1980年)からは国の補助事業となり、「シルバー人材センター」という名称で全国の市区町村で設置が相次ぎました。昭和61年(1986年)には「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」の制定によりシルバー人材センター事業が法制化され、その後の発展につながりました。

設立は平成5年

成田市では平成元年(1989年)にシルバー人材センターの前身となる組織が発足し、成田市役所内に事務所が開設され事業をスタートしました。平成5年(1993年)4月には事務所を馬橋に移し「社団法人

成田市シルバー人材センター」として正式に業務を開始しました。以後、各種講習会の開催により会員の資質向上が図られたほか、産業まつりなどでの普及啓発活動も盛んに行われました。平成11年には、就業機会開拓専門員が活動を始め、企業や一般家庭への就業開拓に取り組みました。設立当初は、植木剪定や除草作業といったものがシルバーの代表的な仕事でしたが、企業や一般市民へのPR活動により職種も職域も大きく広がりました。

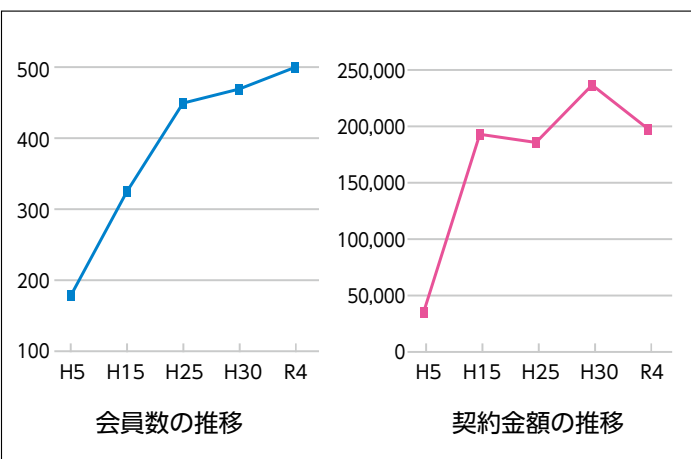
合併で組織が拡大

平成18年3月の市町村合併で下総町と大栄町のシルバー人材センターが成田市に統合されたことにより組織の拡大が図られました。こうした背景のもと、この年の9月には「通パト」の愛称で市民に親しまれている通学路防犯啓発活動が、市の委託事業としてスタートしました。さらに、11月には馬橋にあった事務所が現在の久住中央に移るなど、平成18年はセンターが大きく発展する分岐点といえる年となりました。その後、平成24年(2012年)の公益法人制度改革により「公益社団法人成田市シルバー人材センター」と改め現在に至っています。

会員数は500人に

本センターが設立された平成5年の会員数は、175人(男124人、女51人)でしたが、令和4年(2022年)には500人(男391人、女109人)に増加、契約金額も平成5年に33,816千円だったものが、令和4年では196,374千円と大きく伸びています。

令和2年(2020年)の新型コロナウイルス感染症拡大という予想外の事態を受け契約金額も一時的に落ち込みましたが、徐々に回復して元の水準に戻りつつあります。



昭和50年(1975年)	江戸川区高齢者事業団設立
昭和55年(1980年)	国の補助事業となり「シルバー人材センター」として全国的に事業展開され、「全国高齢者事業団・シルバー人材センター等連絡協議会」が発足
昭和61年(1986年)	「高齢者雇用の安定等に関する法律」施行
平成元年4月(1989年)	成田市役所に任意団体「成田市シルバー人材センター」が発足
平成5年4月(1993年)	成田市馬橋8番地の1に事務所を置き「社団法人成田市シルバー人材センター」が設立
平成10年12月(1998年)	シニアワークプログラム事業 第1回目となる介護講習会(介助サービス入門)開催
平成11年1月(1999年)	就業機会開拓専門員が活動開始。市内の個人家庭と企業へパンフレットを配布しPR
6月(1999年)	「千葉原シルバーの日」で普及啓発活動を実施
平成16年11月(2004年)	成田市産業まつりに参加、普及啓発活動を実施



定時総会(令和4年)



市と協定を締結(平成28年)



通学路防犯広報啓発活動出動式(平成18年)

令和5年10月(2023年)	30周年記念式典、シルバー祭り2023を実施
令和4年6月(2022年)	通常の形で定時総会開催
令和2年6月(2020年)	7月(2020年) 新型コロナウイルス感染症拡大により、書面による定時総会となる 女性部会発足 ※令和2年度は、市主催の主なイベントが中止となり、本センター主催のシルバー祭りも中止した
平成28年3月(2016年)	4月(2016年) 「シルバー祭り2016」をもりんぴあこつつで開催 市と空き家等の適切な管理の推進に関する協定を締結
平成27年7月(2015年)	パトロール専門員によるパトロール開始
平成26年6月(2014年)	空港周辺道路美化活動に参加
平成25年3月(2013年)	11月(2013年) 4月(2013年) 設立20周年記念事業を実施 公民館管理業務派遣開始 駅前クリーン運動に参加
平成24年4月(2012年)	6月(2012年) 12月(2012年) 公益社団法人成田市シルバー人材センターに改名 通常総会から定期総会に開催方法を変更 人材派遣業届出
平成22年3月(2010年)	5月(2010年) 地域班活動開始 地域班ボランティア活動開始
平成20年8月(2008年)	成田市健康福祉まつりに参加、普及啓発活動を実施
平成18年3月(2006年)	9月(2006年) 11月(2006年) 市町村合併により下総町、大栄町シルバー人材センターを成田市に統合 通学路防犯広報啓発活動開始 事務所を成田市飯岡47-1(現住所・久住中央1-12-3)へ移転



設立30周年記念式典を開催

令和5年10月21日、「成田市文化芸術センターなごみの米屋 スカイタウンホール」において、成田市シルバー人材センター設立30周年記念式典が盛大に開催されました。

本センターの飯田幸雄理事長の挨拶に続き、来賓の野田芳久(公社)千葉県シルバー人材センター連合会会長、小泉一成成田市長、神崎勝成田市議会議長、栗田壮一郎成田商工会議所専務理事から、これまでの30年間に築き上げた功績を称える祝辞が述べられました。

このほかの来賓として田中豊嗣(公社)佐倉市シルバー人材センター会長、平林健一(公社)四街道市シルバー人材センター会長、中井弘文(公社)八街市シルバー人材センター副会長、今井進(公社)富里市シルバー人材センター理事長、嶋田孝男(公社)酒々井町シルバー人材センター会長、関根賢次成田市副市長、米本文雄成田市福祉部長、海保茂喜成田市議会議長、伊藤春樹成田市高齢者クラブ連合会長の出席がありました。

記念式典では、設立30周年を記念

して、本センターの発展に功労のあった29名が表彰され、それぞれに表彰状と記念品が授与されました。表彰者を代表して前理事長の下村精哉氏が謝辞を述べると会場内から大きな拍手が送られました。

式典終了後には、夢芸人・齋藤和文氏による「にっこり健康おしゃべり親子育てマジック笑」と題する記念公演が行われました。



下村前理事長謝辞



小泉一成成田市長からの祝辞

表彰者一覧 (基準日：平成5年10月21日)

役員表彰 (役員として継続3期以上在任し退任)

岩館利成 大竹信夫 川崎みな子 川瀬昭功 下村精哉 中野早苗 牧野春雄

会員表彰 (継続15年以上在籍、80歳以上、就業実績10年以上)

日暮布二男 藤井克己 篠田寿雄 永嶋直巳 山田弘行 宮内千恵 阿波崎一雄
阿部敬吉 萩野亨 江原作夫 阿部満男 清藤紀男 小澤真人 大木勝彦 今野宏
松本安弘 川嶋光彦 東山昭治 高木孝子 北崎利之

職員表彰 (15年以上勤務)

前田淳子 石井健



役員表彰



会員表彰



職員表彰

30周年を迎えて



理事長
飯田幸雄

成田市シルバー人材センターは平成5年4月に社団法人として設立され、その後平成24年に公益社団法人に移行し、お蔭様で昨年設立30周年を迎えることができました。

これもひとえに、地域の皆様や成田市をはじめとする市内の諸団体のご支援ご協力の賜物であり、また会員の皆様のご尽力によるものであります。改めまして厚くお礼申し上げます。

さて、近年は世界中に新型コロナウイルス感染症が蔓延し、さまざまな行事等の中止や縮小が余儀なくされ、経済の不振や倒産等により不安定な情勢となりました。会員の皆様におかれましても不安な日々を過ご

されたのではないかと思います。当初、式典等も縮小方向でありましたが、昨年5月8日にコロナの分類が下げられたことにより、理事の皆さんのご理解のもと設立30周年記念式典並びにシルバー祭りを開催することができました。

私は、就任以来一年が過ぎ、この間インボイス制度等をはじめとする課題が多々ありましたが、先ずは中断していた各研修会や講習等の開催、また令和4年度に実施した会員アンケートに基づいた運営等の見直しも図りたいと思います。大きな課題として一つ目は会員の増強、特に女性会員の拡充に力を注ぐことです。二つ目は就業先の開拓です。この二つは本センターが大きく飛躍するためには是非とも不可欠な課題であり、両輪と考えております。また、世の中も著しく変化しつつあり、新しく入会される皆様の働き方に対する希望も多様化しており、さまざまなニーズを的確にとらえ積極的に取り組みたいと思います。

会員並びに関係者の皆様に於かれましては、今後とも引き続きシルバー人材センターにご尽力頂きますようお願い申し上げます。また、30周年事業の開催にあたりましては、成田市内の各事業者様より多大なるご協賛を賜りましたことを深く感謝申し上げます。

シルバー祭り2023

令和5年10月21日、本センターの設立30周年記念式典と同会場で、シルバー祭り2023が開催されました。

令和元年以来4年ぶりとなった今回は、夢芸人齋藤和文氏による「にっこり健康おしゃべり親子育てマジック笑」、成田市消防音楽隊による「ビートルズメドレー」の演奏、お楽しみ抽選会などが行われました。また、ギャラリーでは、会員によるハンドメイド作品、「ミニチュアトレイン・オリジナルスマホバッグなどの手芸品・竹工藝・使用済みの切手を使った切手アート」や、三里塚・成田・はぼたん幼稚園の園児が描いた「おじいちゃん・おばあちゃんの絵」などが展示されました。ハンドメイド作品はチャリティ販売も行われ、売り上げの一部は社会福祉協議会に寄付されました。



消防音楽隊の演奏



竹工芸品



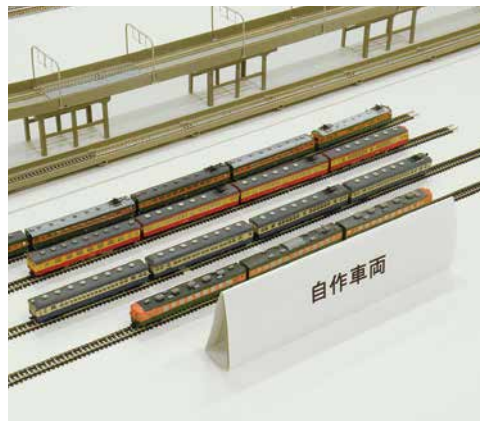
ハッピーマウスKAZUさんのマジック笑



園児作おじいちゃん・おばあちゃんの絵



古切手アート



手作りのミニチュアトレイン



オリジナル手芸品

会員紹介

「仕事も趣味も充実」

中村 美知子さん(玉造)



中村さんは令和4年4月に入会し、現在は受付や花の手入れなど自分の時間に合わせてできる仕事に就業しているそうです。シルバー会員の知人から「家でボーっとしている時間を、お小遣いくらいになるので働いてみない？」と声を掛けられたことがきっかけで入会を決めたとのこと。

今までで一番大変だった仕事について伺うと「出荷を終えたトルコキキョウを撤去するという就業です。ハウスの中での暑さとの戦いで熱中症になるのではないかと思う程でした。でもやり遂げた時は、達成感を味わう事が出来てとても良かったです」と答えてくれました。また、仕事以外にも女性部会主催の太極拳や楽しく心身の向上を目指すというテーマの歌声カフェなどに参加して楽しんで

ているとのことでした。

趣味も多彩で、昔はご主人の転勤先でママさんバレエ、現在はフラダンスやバンドを組んでボーカルを担当しているとのこと。ボーカルでは、BEGIN(ビギン)をよく歌うそうです。フラダンスについて伺うと、「一気に7〜8曲も踊るので覚えるのが大変です。動画を観ながら家での練習は、左右が逆なので苦戦しています。師事している先生のほかに本場ハワイの先生からの指導も受け、お友達と一緒に頑張って練習してきた踊りを発表会で披露する事が楽しい嬉しいです」とのこと。バンドもお友達から声を掛けてもらったことがきっかけで始めたようで、「趣味でたくさんの人に会えた」と嬉しそうに話してくれました。



フラダンス衣装

会員になりませんか

まずは入会説明会に

シルバー人材センターでは、常時会員を募集しています。長年の職業生活から引退したけれど、健康維持や生きがいづくりのために働きたいという希望と、それにふさわしい意欲と体力をお持ちの方は、ぜひ入会をご検討ください。

入会資格は次の通りです。

- 原則として60歳以上の人
- 成田市内に居住されている人
- 理念に賛同され、お互いに協力し、助け合い、いたわりあって就業できる人

入会説明会は、毎月最終水曜日の午前10時からセンター(久住中央)で予約制で開催しています。ただし、祝日や年末は日程が変わる場合がありますので、事務局にお問い合わせください。

また、センター以外の場所で、年に2〜3回の特別入会希望者説明会を開催していますので「広報なりた」などでご確認ください。

就業相談会後に入会手続き



入会説明会后に、入会申し込みをされた方を対象に、毎月第2水曜日午前9時30分からセンターにおいて就業相談会を行います。一人15分程度で就業の希望などについてお話を伺います。この後理事会の承認を得て正式に会員登録されます。

※くわしくはセンター事務局(36-6161)へ。住所＝〒286-0819成田市久住中央1丁目12番3。



三里塚地区で行われた入会希望者説明会

わたしの趣味 —布草履作り—

高木 芳次 会員(玉造)

布草履を作り始めたのは4年前で、リサイクルセンターで行われた講習会に行ったことがきっかけでした。捨てるには勿体ない布もあり、それを利用して作ってみると「もっと上手に作れるようになりたい」という思いが込み上げてきました。幅を均一に綺麗に仕上げるのがとても難しく、少しでも上手く出来ないと自分が



足半(手前) 布草履(奥)

納得いくまでやり直します。上手く出来た時は本当に嬉しいです。少しでも見栄えを良くするために色の組み

合わせも勉強しました。

今は『成田GⅢ(ジースリー)工房』という名前で創作活動をしていて、足半(あしなか)に挑戦しています。足半というのは踵の無い短い草履です。足の指を効率よく使わせることが出来て、とても健康に良い草履です。



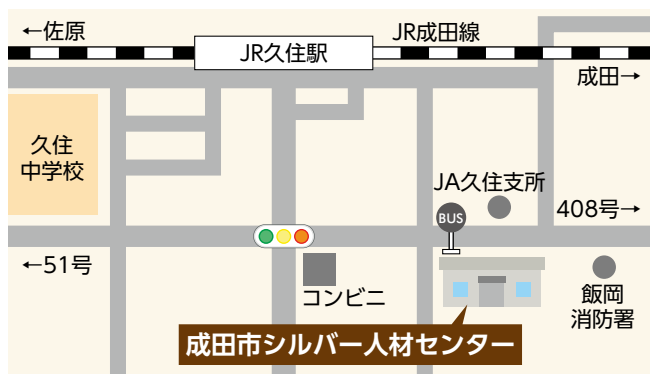
また、昨年10月のシルバー祭りで初めて自分で作った草履を販売し、売れたときはとても嬉しくて、色々な人に自分が作った草履を履いて喜んでもらいたい、という気持ちが大きくなりました。これからも販売が出来るような作品を作れるように頑張っていきたいと思います。

事業実施状況報告

		令和4年度	令和5年度
会員数	男	404人	403人
	女	105人	120人
	合計	509人	523人
就業実人員		415人	397人
就業率		81.5%	75.9%
受託件数	公共機関	243件	228件
	民間企業	472件	470件
	一般家庭	875件	743件
	合計	1,590件	1,441件
契約金額		103,591千円	102,532千円

契約金額等は減少するも会員数は微増

昨年度は新型コロナウイルスの5類感染症への移行もあり国内の経済は回復傾向にありましたが、本センターにおいては植木剪定作業の業績悪化が響き、就業実人員、就業率、受託件数、契約金額ともに減少しました。これは、高齢化などにより植木班会員が減少したため、深刻な人手不足となり受注制限を行うなどしたためで、結果的に全体の業績にも影響を及ぼしました。また、会員数は女性部会などの活動が活発化したこともあり女性会員が増え、4年度に比べ僅かながら増加となりました。



編集・発行 公益社団法人 成田市シルバー人材センター 広報部会
 〒286-0819 成田市久住中央1丁目12番地3
 TEL 0476-36-6161 FAX 0476-36-6711
<http://webc.sjc.ne.jp/narita/index>
 E-mail: narita@sjc.ne.jp

〈受付時間〉
 月～金曜日 午前8時30分～午後5時15分
 (土日・祝日、年末年始除く)



編集後記

シルバー世代の会話で必ず盛り上がるものといえば50～60年前の話です。当時の生活様式のこと、周りの風景のこと、そのほか歌手や俳優、テレビ番組etc…。若かったころの昭和の記憶は鮮明に蘇ります。本センターは平成5年(1993年)に設立され昨年30周年を迎えました。今回その特集ということで、その歩みを年表にまとめてみましたが、誕生した年も含め、その頃の社会の出来事が中々思い出せず愕然としました。子育てや仕事忙しい年代に入っていたこともあり頭に浮かぶのはデイズニールンドくらい。しばらく考えやうと思ひ浮かんだ平成5年の大きな出来事は「皇太子殿下と雅子さまのご成婚」でした。